

6.28観劇の会報告



観劇の会 報告 6月28日(日)於築地本願寺ブディストホール

方の会 第56回公演 ≪ 文七元結 ≫

原作 三遊亭圓朝

脚本 坂上朋彦・市川夏江

演出 坂上朋彦

「江戸っ子の心意気？ 自己犠牲の精神？」

久しぶりの観劇の会である。会場は築地本願寺内のホール。私は初めての会場だ。

今回は「方の会」公演で、志村会員のおれあい野間洋子さん出演の「文七元結」を観た。ご存じの方も多いと思うが三遊亭圓朝原作の「落語ネタ」である。

歌舞伎では時々上演されるが、歌舞伎以外ではどうなるのか？ 興味を持って開演を待った。演出者の解説では、原作にない場面を付け加えたり、登場しない人物を登場させて、作品の空間的重層化を試みたとあるが、私自身はいまいちハッキリしなかった。

歌舞伎では人情や自己犠牲が全面に出されていると思うが、今回の舞台はどちらかというと、「自己犠牲も江戸っ子の心意気」であるように観えた。しかし、泣かせたり笑わせたりはいつもの通り。原作者の圓朝も「権力を握った薩長土肥に江戸っ子の心意気を見せるためにこの作品を作った」と言っている。野間さんは長屋の住人「お君」役で出演、よく通る声が響いた。

終了後、近くでコーヒーを飲みながら、国立劇場に勤務されていた石井(伸)さんの情報提供で、作品の感想、能、狂言、文楽と伝統芸能に関する話がはずんだ。参加者は荒木さん、馬場さん、石井(伸)さんと私の4人。次回の観劇の会は10月頃、志村さん脚本・演出の「九条武子」を予定している。(文:穂積 写真:荒木)



長屋住人お君役の野間洋子夫人

